

うぐいす笛（小刀のみ使用）

太さの違う2種類のしの竹を削って、笛を作ります。
小刀を上手に使うと自分だけの鳴き声の笛が出来ます。
うぐいすの鳴き声をまねて鳴らしてみましょ。



ねらいとして考えられるもの

- ・創造力、表現力を高める
- ・生活、文化を学ぶ

可能な活動場所

- ・ピロティ・車庫、避難所

所員の指導	対象	月	人数	所要時間	費用
指導可*1	4年生以上	通年*2	10~60人*3	2時間	50円

団体が準備するもの

軍手（滑り止めのあるもの）・筆記用具

げんきプラザが準備するもの

しの竹・小刀・テープ・作業マット

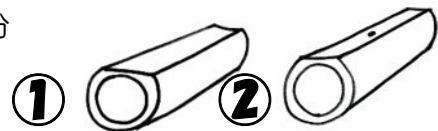
実施要領

導入

- ① 動機づけ
- ② 安全上の注意（下記「留意点」参照）

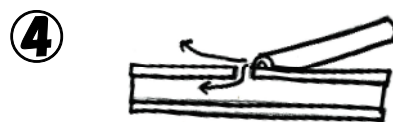
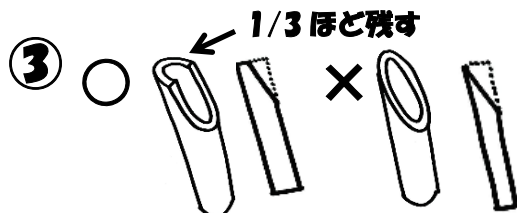
準備（1作業台 2~3人程度）

- ① 作業台を準備する。
- ② 小刀人数分、しの竹（太1本、細1本）、作業マット人数分
- ③ 道具は説明後に配布するので、説明作業台の上に準備。



実施

- ① 太い方の竹の一面を小刀で平らに削る。この時、削りすぎないように注意する。
また、平らな面は出来るだけなめらかにしておくのが望ましい
- ② 平らな面の中心付近に、約5mmの穴を開ける。小刀の先を刺し刃を回すことにより調整を行う。
- ③ 細い竹の端1.5cmの所から端に向かって斜めに削っていく。この時には、角度が大きくなりすぎないように注意する。（下図参照）この面も出来るだけ平らであることが望ましい。
- ④ 細い竹の削った部分を、穴の近くに置き、細い竹の方から息を吹き込む。
音の出る場所は各々違うため、前後にずらしながら調整する。
- ⑤ どうしても音が出ない時には、
ア 太い竹にあけた穴を少し大きくする
イ 空気がもれないように接地面を平らに削り直す。
ウ 細い竹の反対側で、角度を変えて削り直してみる



片付け

- ① 道具類は入っていたケースに入れ、あった状態に戻す。
- ② 使用した作業台を元あった場所に戻す。
- ③ 下に落ちた木くずやゴミを掃き掃除する。ゴミは掃除用具入れ脇のペール缶へ。

まとめ

- ・ふりかえり
- ・下記参照

留意点

- ① 刃物等、怪我をする道具を使用します。正しい使い方を守って作業して下さい。
- ② 材料（竹）を押さえる手に軍手を装着し、道具は素手で持つようにしましょう。
- ③ 後片付けはみんなで協力し、次の団体にも気持ちよく作業をしてもらえるようにしましょう。

指導のポイント・展開のアイデア

- ・鳴らない時は、空気がもれていないか、穴が小さすぎないか、細い竹の角度はどうか、など色々な理由が考えられます。そこを今一度修正すると、ほとんどが鳴るようになります。
- ・誰が上手にうぐいすのまね音ができるか、挑戦してみましょう。
- ・身近にはどんな竹製品があるのかを考えてみましょう。
- ・なぜ、音が出るのか考えてみましょう。

*1 指導可能時間は 9:15～11:45 13:00～17:00 です。指導希望団体が重なる場合等、ご要望に添えない場合や、団体指導者をお願いすることがあります。

*2 7,8月の実施は要調整

*3 60人を超える場合は、2班に分けて実施したり、交代で実施していただく場合もあります。